

【戦略5】畜産業の競争力強化（その1）

国内外の競争激化を踏まえたブランド力の向上や規模拡大等により、畜産業の競争力強化をめざしていく。

(1) 畜産生産 ～山形生まれ山形育ちの畜産物の生産拡大とブランド力向上～

① 地域で支える畜産クラスター推進プロジェクト

【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30目標値	H32目標値
畜産による産出額	447億(H26)	473億(H27)	485億円	500億円

【30年度の取組み】

○若手の畜産担い手の育成

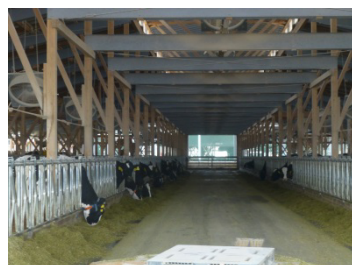
- ・肉用牛の担い手育成のための研修会を開催（置賜:8/29、庄内10/29）



置賜和牛塾による現地研修

○畜舎等の生産基盤強化の支援

- ・畜産経営競争力強化支援事業(県単)により施設整備等を支援(37地区採択、うち23地区の交付決定)
- ・国の平成29年度補正予算の畜産クラスター事業(施設整備)により6地区の畜舎等の整備を支援(6地区の交付決定、事業費計約24億円)
- ・畜産クラスター事業(機械導入)について、国の平成28年度補正予算分25戸、平成29年度補正予算分74戸の機械導入を支援

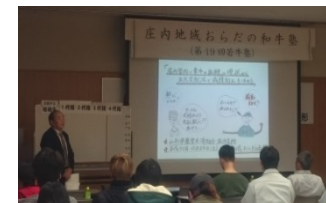


畜産クラスター事業でH29に整備した大規模乳用牛舎(米沢市)

<今後の取組み予定>

○若手の畜産担い手の育成

- ・肉用牛の担い手育成のための研修会の開催(2回:村山、最上で各1回)
- ・酪農の担い手育成のための研修会の開催(11/29)



庄内和牛塾による座学研修

○畜舎等の生産基盤強化の支援

- ・畜産経営競争力強化支援事業(県単)による施設整備等の支援(14地区の交付決定、全地区の工程管理)
- ・畜産クラスター事業(施設整備)に取り組む6地区の工程管理
- ・畜産クラスター事業(機械導入)に取り組む74戸の円滑な実施の支援

【評価と課題】

○若手の畜産担い手の育成

- ・担い手を対象とした研修会の開催により、飼養管理技術の習得や相互の交流促進が図られている。生産者の高齢化等による畜産農家戸数の減少が続いているため、後継者や新規就農者の担い手を継続的に育成・確保することが必要

○畜舎等の生産基盤強化の支援

- ・規模拡大のための施設整備や省力化・生産性向上のための機械導入への支援により、担い手の生産基盤の強化が着実に進んでいる。畜産による産出額500億円の達成に向けて、引き続き意欲ある担い手が行う規模拡大等の取組みを地域ぐるみで支援することが必要

【戦略5】畜産業の競争力強化 (その2)

(1) 畜産生産 ～山形生まれ山形育ちの畜産物の生産拡大とブランド力向上～

③ 酪農生産性向上・消費拡大プロジェクト

【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30目標値	H32目標値
乳用牛産出額	81億円 (H26)	89億円 (H28)	89億円	93億円
経産牛1頭当たり生乳生産量	7,254kg (H23～27)	7,645kg (H28)	7,600kg	7,700kg

【30年度の取組み】

○乳用牛のベストパフォーマンス実現の支援

- ・乳用牛改良推進会議を開催(9/6)
- ・牛群検定実施への支援・指導を実施(対象50戸)
- ・性別別精液活用促進のための現地研修会を開催(村山・置賜:10/30、最上・庄内:10/31)



性別別精液の授精実習
(村山・置賜)



性別別精液活用の座学研修
(最上・庄内)

○県産牛乳等の消費拡大

- ・山形県牛乳普及協会との連携によるイベントでの県産牛乳のPR活動(農林水産祭(10/13～14)、料理コンクール(10/20))
- ・県産乳製品(チーズ、ヨーグルト)の加工の取組み推進に向けた農林大学校への乳製品加工施設の整備(30年度内完成予定)



料理コンクール表彰式



イベントでの県産乳製品のPR

<今後の取組み予定>

○乳用牛のベストパフォーマンス実現の支援

- ・牛群検定実施への支援・指導の実施(対象50戸)
- ・ベストパフォーマンス実現セミナーの開催(11/29)

○県産牛乳等の消費拡大

- ・山形県ミルクブランド推進協議会との連携による商談会やイベント等での県産ヨーグルト等の乳製品のPRと販促活動の実施

【評価と課題】

○乳用牛のベストパフォーマンス実現の支援

- ・牛群検定農家への指導等により、経産牛1頭当たりの生乳生産量は徐々に増加しているものの、酪農家の戸数・頭数が減少していることに加え、乳用初妊牛価格の高騰により後継牛の導入が困難な状況が続いていることから、飼養管理技術の改善のためのセミナーや現地研修会の開催等を通じた生産性の向上、並びに高能力牛の増産による後継牛の確保対策に取り組み、生乳生産量を拡大することが必要

○県産牛乳等の消費拡大

- ・県産ヨーグルト等の販売拡大が進んでいるものの、牛乳・乳製品における産地間競争が激化していることから、県産飼料利用や資源循環などの生産面でのこだわり等をアピールした販促活動が必要
- ・農林大学校の乳製品加工施設を活用して加工技術者の養成を図り、飼料や品種等で特徴のある乳製品の開発を推進しながら、消費拡大につなげていくことが必要